

弘 前 大 学

國 史 研 究

第 139 号

法要から見る萩藩一門家元祖をめぐる藩内秩序 地域の名菓を探る ↳ 近代青森県にとつての「名菓」とは何か	根本みなみ	1
〔研究ノート〕		
弘前津軽家の両敬における書札礼	篠村 正雄	37
弘前市立弘前図書館所蔵の神田孝平から下澤保躬に あてた書簡―陸奥考古学界草創期の一断面―	福田 友之 福井 敏隆	48
〔書評と紹介〕		
鐘江宏之著 『大伴家持』（日本史リブレット 人10）	武井 紀子	62
『青森県史 資料編 近世6 幕末維新期の北奥』	工藤 威	65
山下須美礼著 『東方正教の地域的展開と移行期の人間像 ―北東北における時代変容意識―』	北原かな子	68
『新青森市史 通史編第三巻 近代』	本康 宏史	71

弘 前 大 学 國 史 研 究 会

2015・10

― 彙 報 ―

◎弘前大学国史研究会研究大会が、平成二十七年九月二十七日、弘前大学人文学部4階、視聴覚ルームにおいて開催された。本大会では、左記の研究報告があった。

〔研究報告〕

「北方史研究の成果を活用した歴史教育の試み」

青森県総合学校教育センター 高校教育課 指導主事 金子勇太氏

「明治期における青森県の鉄道」

青森県立郷土館 主任学芸主事 佐藤良宣氏

その後、国史研究会総会が開催され、総会では、会務報告、会計監査報告、会計報告、会則審議が行われた。会則については、会誌の郵送方法の変更や消費税のアップなどにより庶務経費の支出増に伴い、第10条の会費年額1000円が1200円に改正された。また、会員名簿を作成することが承認された。

ついで新役員の改選があつて、会長には長谷川成一会長が再任され、役員任命については、会長一任が了承された。副会長には小口雅史氏が再任され、新たな監事として竹内勇造氏が任命された。委員の互選により、代表委員には関根達人委員と福井敏隆委員が選任された。新役員は別掲の通りである。

(F)

弘前大学国史研究会役員名簿 (平成二十七年度)

- 会 長 長谷川成一
- 副会長 小口雅史
- 代表委員 関根達人 福井敏隆
- 委 員 瀧本壽史 武井紀子 古川淳一 本田 伸 三浦忠司
- 監 事 篠村正雄 竹内勇造

平成二十七年十月三十日

弘前大学 國史研究 第一三九号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学人文学部日本史研究室内

編集者
発行者

弘前大学 國史研究会

振替口座 〇二三〇〇一六三四番